





Is It Still a Dream?

夢だったかしら?



Ist es noch Traum?

向井千恵

(朝弓、ヴォイス、etc)

倉本高弘

(パーカッション、etc)

田中トシ

(ヴォイス、アクション)

中座富士子

(ピアノ、パーカッション、etc)

3月8日 (土)

スタジオヴァリエ

☎075-771-2568  
市バス近衛通下  
車道通東へ入  
ル2丁目北入ル

PM 7:00 ~

チャージ 至600

問合せ ☎ 0775-65-2205 (倉本)

これは投稿のついでです、

これは投稿のついでです、

これは投稿のついでです、

## 前略

いつもフクモトベさんへの私信の形で手紙を書いているんですが、最近割りと顔を合わせる機会が多いじゃない？ だから、既に話し合っていて、私信で書くまでもないことも結構ありますよね。例えば『鳥の歌』のコンサートのこととか、《アルタード・ステーツ》のこととか。

ところで、昨日金野くんから手紙がきて、それに応えて手紙を書こうとしてたら、彼の手紙も《パーソナル・エフェクツ》によく出ていることと、自分の手紙が出ていないときでも彼は少なくとも《PE》を読んでいる、ということをごさらながら思い出しました。

そこで今回は、フクモトベさんあての手紙と金野くんあての手紙を同時に、まぜこぜに書くというのを試みたいと思います。フクモトベさんにとって初耳でないことは金野くんあてに書かれたもの、金野くんにとって初耳でないことはフクモトベさんあてに書かれたもの、両者にとって初耳ということは両者にあてて書かれたもの、と判断してください。両者にとって初耳でない、というものがあつたら、それは何かの強調であるか、僕の記憶違いで繰り返して書いた●ものであるかのどちらかだと思ってください（第三者にとっては全部初耳、かもね）。

（だけど、この方式は今回限り——と言わないまでも、たまにやるにとどめることにしようと思います。）

## 映像関係の話から。

『コマンドー』、『パタリオン』ともに面白かったとのことですが、僕は未見です。『Vマドンナ大戦争』を観た話はしてなかったでしょう？ だいぶ前——去年の夏だったと思うけど。僕は宇沙美ゆかりのファンなんで観に行ったんだけど、アクションや乱闘の場面がしっかり作られており、結構迫力あって、単なるアイドル映画に終わってはいなかった。アイドル・バイオレンスもの？ だが、結末はひどい。ここには書きませんが、まさかあの落ちではあるまいな、と思って見てたら、その「まさか」だったんで、呆れました。

『たんぼぼ』は暮れに観た。（食べることをテーマとしている点を除いては）特に相互関係のない複数のエピソードから構成されている。それなりに面白いが、映画ならではの、という面白さじゃなかったな。やっぱり『お葬式』のほうが良い。でも、ウェル・メイドであることは確か。インテリ臭いと言って嫌う人もいるみたいだけど、伊丹サンのはやほりたいしたもんだと認めざるを得ない。

TVでは暮れに『タイム・アフター・タイム』やってたね。H.G.ウェルズが自作のタイムマシンに乗って'70年代に逃げた切り裂きジャックを追跡する、という物語のアイディアは○。だけど、展開は余りにも御都合主義的というか、予定調和的で鼻白む。伏線が目ざわりに感じる。僕がスレた観客だから、という理由もあるか？

同じく最近TVでやってた『アルタード・ステーツ』、これも面白くならなきやおかしいってくらいいいアイデアだね。でも、やっぱり展開がちょっと不満。ちやちな猿人なんか出さないで、あくまでハードで通して欲しかった。特に結末

の甘さには不満。主人公があそこで虚無に向かってジャンプしなくてどうするのか。それではエンタテインメントじゃなくなるとでも思ったのだろうか。でも、映像はなかなかサイケして良かった。今度は映画館で見ようと思う。

『コミック雑誌なんかいらない!』は、やはり去年の内に公開されるべきだった。そしたら、より生々しく、悪夢に一步近付いたものとして観ることができただろう。内田裕也は嫌いだ、思い付いたとしても誰も実際に作ろうとはしないであろうあんな映画をよく作ったなあ、と感心した。

《シナリオの無い映画たち》の第1日。7本の8ミリ個人映画を観た（あと2本残っていたのだが、しんどくて退散。2日めは別の用事で行かなかった）。「個人映画」というくらいだから自分にこだわるのは当然だとは思うけれど、この種の映画の多くが持つ強い生活臭とナルシズム（あるいはその裏返しとしての自己嫌悪のそぶり）にはどうも抵抗がある。もうちょっと突き放した部分が欲しいと思う。そういう意味で、この日観た中ではやはり乙部作品が作品との距離が保たれていて、一番良かった。

『なげやり倶楽部』は、大阪よみうりテレビの1時間もののバラエティー番組。ロックバンド（シーナ&ロケット、戸川純とヤブーズ、爆風スランプなど）のライブ、視聴者参加（いたぶられるだけ、という感じ）のコーナー、細切れのギャグなどで構成されているが、中島らの趣味と人脈を主に作られているようだ。美川くんから、第1回～第8回放送分（昨年10月から12月）のビデオを借りたんだけど、いやー、面白い。笑い転げながらぶつづけて観たけど、全部ダビングすることになりました。往年の『ゲバゲバ90分』と『モンティ・パイソン』を思い起こさせるところもありますが、やはり関西ならではのエゲツないノリが基調となっています。関東人には受けないかもねー、と思ったが関西人にとっても余りにマニア受けだったのか、1月いっぱい放送打ち切りになったようで、惜しいことです。

『山谷』。いわくつきの映画だけに、もっと声高で熱気剥き出しの作品を想像していたが、意外に抑制がきいており、「重い」出来である。それだけに内に秘めた怒りがジワジワ感じ取られる点はいいのだけれど、構成はいささか散漫だと思う。「無保障者はかれらが担う生産価値、生産潜在力によって、資本主義的権力と搾取の現在の新たな枠組みにおける基本的な社会的役割を担わされている」という事実と、「無保障者層こそが特異／固有化への生成変化を結集させる想像力と闘争の戦線を形成しうる者たちであり、労働の集团的力を営倉化し操作する巨大な機械を分解する新たな目標、新たな実践を白昼へと置く闘争の前線を形成すべき者たちである」という主張（ガタリ）が、「半分謎」（平井玄）としてではなく、映像を通して「理」としても明示されていたなら、怒りを掻き立てる以上の効果があるに違いない。

## ライブの感想。

《鳥の歌1986》は、映画『山谷』上映のためのベネフィット・コンサート（2月2日）。河内音頭の河内家菊水丸のノリ（やはり関西のノリは異質だ）と、A-Musik

の賞禄（演奏はセンチメントに訴えることに傾き過ぎた気がする）が印象に残ったが、暖房が無い会場で、ともかく寒くて参った。

2月16日、「山猫軒」（「ハバナムーン」が東中野で生まれ変わった、みtainな店）で久々にChe-Shizuのライブを観た。向井千恵（胡弓, vo）、西村卓也（el-b）、小山景子（kb）、?（失念, per）というラインナップで、冬里（el-g）は姿を見せなかった。終了後に向井さんに感想を求められたので、「ミディアム・テンポで曲想も似た曲が多く単調だったけど、後半のノリは良かった。中近東っぽい曲（新曲で、向井さんのオリジナル。この日が初演だったそう）がいい。」と答えた。この日の向井さんは「おしゃれ」だった。意外と盛況で、客の中には小山哲人や町田町蔵もいた。Che-Shizuはこれからどうなっていくんだろうな。

《梨と苺の形をした歌と踊りと即興》は竹田賢一（dance, vo, 大正琴）、香村かをり（dance, vo, 胡弓）、木村真哉（p, per, ac-g, reeds）の3人によるパフォーマンス（2月20日、「テルアシコール」）。タイトルが示すとおり、歌、踊り、即興演奏をいくつかの組み合わせもしくはソロで行う。緊密で美しい瞬間が幾度か垣間見られたが、全体として坦々/淡々としていた。で、この日の目当てはなんといっても最初で最後という前評判の竹田さんの踊りだったのですが、布を被って仰臥し、手を上に突き出して指人形みたいに動かしただけで（それはそれで面白いものではあったが）、肩透かし食われた感じ。僕は（多分、ほかの客も）もっと「恥ずかしい」ものを期待してたと思うんですが……。

読書。深入りしたら切りがなくなりそうのでヤバイなあとという危惧から今まで敬遠していたのだが、ふとしたきっかけから古代史関係の本を読み出した。どうしても古田武彦とか佐治芳彦とか、正統とは言い難い説の論者の著作のほうが面白くて、つい偏りそうになるんで、普通の概説書なんかも参照したり、日本人の邪馬台国論争に対する根本的な疑義を含む著作（『邪馬台国 中国人はこう読む』（謝銘仁）など）も併せて読んでいたりしてバランスを取っている。邪馬台国論争が果てることなく続いている理由には、文献的な史料が限られていること、それらの記述が必ずしも明確ではないため様々な解釈の可能性を許していること、決定的な考古学的「物証」を欠くことなどが挙げられると思う。天皇制や差別の問題にも密接に関係することから、否応なしに論者のイデオロギーが問われる面も見逃せない。加えて漸次新たな発見（例えば一昨年出雲で大量の銅剣が出土した「事件」）や提言（例えば前述の謝銘仁ら中国人学者による、日本人の『魏志倭人伝』の誤読に関する指摘）がある訳で、興味の尽きない分野ではある。……ほかにも読みたい本がいっぱいあるというのに、困る。

あと、河合氏に聞いて入手した『るさんちまん』の第2号における匿名氏（多分、生田耕作）インタビュー／『ユリイカ』のバタイユ特集におけるスヴァーリンの文章／『セントハウス』2月号所載のポール・マッカートニーインタビューのそれぞれにみられる憎悪と罵詈雑言の様々、ここどころやや盛り返している感がある『ダカーボ』第103号の特集《情報操作の実態をさぐる》などを興味深く読んだ。

レコード、テープの類は余り耳にしていらないです。Pilot氏からの2つめのプレゼント・シングル「X Ray Pop」、『ズックと灰/Points of Friction』（科補氏より）、『オレにもくれ』（大塚一弘氏より）、『Realization/ジャックス』など。だけど、なんといっても嬉しかったのはニヒリスト・スバズム・バンドの3枚めが出たことだね。

出来事。ここどころ確執じみたことが続いて、どうも落ち込んでいます。

一つは元《クリス》の荒井氏との関係。同誌の廃刊記念の打ち上げと、《仁王立ち倶楽部》の独立/自費出版の打合せを兼ねて池袋に集まったときのこと（2月8日）。その前に彼と飲んだときもかなり絡まれたので厭な予感もはしてたんだけど、的中してしまった。僕としてはかなり我慢したつもりだが、向こうが酔っ払ってるとはいえ余り無礼なことばかり口走って挑発するもんだから、ついにはたまりかねて、眼鏡を取ってへし折って「てめえに眼鏡なんか要るか！」などと捨て台詞を残して帰ってしまった。後になって「殴ったほうがよかったかな。眼鏡を壊すなんてのは陰険だったかも知れない」と反省したけど、そのとき殴らなかったのは、派手な立ち回りになったら周囲に迷惑をかけることになるし、殴られて歯を折るよりは眼鏡を壊されるほうがまだ相手の痛手は少ないだろうという、瞬時の判断によります。でも、そう考えられるくらい冷静さがあつたら眼鏡を壊すことだって我慢できたんじゃないのか、とも思えて、やっぱり落ち込んだ。……その後僕のほうから、もう《仁王立ち》からは降りる旨の手紙を出し、それに對して彼からは、自分に対する個人的な怒りとは切り離して《仁王立ち》の制作に参加してほしい、という手紙が来た。そこで今度は、なんにせよ眼鏡を壊したことは謝る/怒りも鎮まっている/だが、文章ではっきり降りる宣言をした以上、撤回する気はない/メディアを共有するのは別の機会にしたい、という内容の返事を出したところです。

もう一つは、『1985』制作費不足分カバーの応援を呼び掛けた『霜田誠二新聞』の内容に端を発して、霜田氏との間で意見が対立していること。結局、問題は一般公募というシステムをどう把えるか、という根本にかかわっていると思う。今のところ、互いに相手の主張の論点がずれていると思っており、真の論争にまで至っていない歯がゆさを感じる。僕としては、言葉が足りなかった点は認めつつ、譲れない部分は譲れないと考えていますが、結局不毛な論争なのかも知れないなあ、という気もして、憂鬱です。

《PSE》には、今のところ大塚一弘・金野吉晃から参加テープが届いています。まだ来そうだから、3月初旬に第4号を出せるか？

では、また、1日の《公民館》のミーティングには行くつもりです。荒井氏、霜田氏とも顔を合わせるようになるのかなあ……。

草々

19860224 GESO

今日の引用

- ★ 健康のためなら 死んでもいい → アメリカの健康家の言とTVは言う
- ★ 「この人、置いて帰るんですか」「ほ、こけ、屍体じゃないか」「人を健康状態で差別するの？」・人間だけが弱者を内側に抱えこみ、適者生存の原理に反している。→「真夜中へもう一歩」矢作俊彦
- ★ 弱いって抑圧的なのよ…弱さをカサにきた弱者の強迫…
- ・人が言ったことじゃなくて、やってることでしか判断したくない
- ・何か言った(書いた)りするって取っつきにくい。出来ればやめたい。黙って生きてい → 自らは生物として淘汰されておるといの上野・宮迫「多型倒錯」
- ★ すばらしい文章がある人じゃなくて、すばらしい生き方があるだけだ。
- ・書いてる本人が書いてる言葉を信じてるからという。ううじゃないよね。
- …人の言うことを信じる人ではないと、フツフ、… 高橋悠治
- ・コンテキスト派の綱領は、相手批判せず、高みの見物をするだけのことだ。
- ・「本は鏡に似ている。猿の尻を覗きこめば、猿の顔しかうつらない。」
- ・林達夫の批判は、ケラ、明るく建設的である。「知」の誇示でなく「知」の抑制。
- ・現代においては進歩とか革命とかは幻想であり…そのかわり認識や表現の可能性や論理の限界と問題と、逆説的状况を発見しては、ふさぎ込みふりをする。・なんでも裸でみたいとは思わぬこと、なんの元にも居あわせたいと思わぬこと、なんも分らない、「知り」たいとは思わぬことーこれらは今日、われわれにとっては「しほみ」の問題である。…生きるためには、表面に、ひたひたに皮膚に、勇敢にも立ちどまることが必要なのだ。…ニ・ケエ → 「コンテキスト感覚」 近沢静也
- ★ ドラゴンを追う者はドラゴンになる…ニ・ケエ・鏡は善なり、ペニスは悪なり、無益なる新しい命と次々と誕生させ疫病のごとき

- 人間をよやし地球を汚す、ゆきて殺せ → 「未来惑星ザルマス」J・J・アマン
- ★ ① 生きものが自分のために殺されるのを自分の目で見た場合。
- ② " " " 殺されたと信ずべき人から聞いた場合。
- ③ " " " と疑いうる状況にある場合。
- 肉食してはならぬ。① ポロリ着よう② 食物は食食し手に入れたものだけ食そう③ 肉・魚・草は食へない④ 屋根のある家に住まない⑤ 人里離れた所にする…ゾウの敵、クマの敵の「原点にかえれ運動」→「仏教おもしろ小百科」
- ★ 分裂症は…冒険の旅、内なる「異界」をめぐる旅。『内』への向への絶えざる進行、人間の旧人の生活を貧しいの漸行、そしてすべての人類の原初的人間のアダムの経験への、そしてまたあきらなく動植物鉱物であることへの漸行… → 「異論序説」 赤坂憲雄
- ★ 現代人は人とのつまみ方を忘れてる。どうやって互いに親しくするのかわからない。おどろかされた敵意はしばしば偏見や暴力の力で行われる → 「面会時間」
- ★ 「聞く」のではなく、ひとと話をすることのみに性急になると、「発言(自己主張)」ことと「聞く(心理的につながる)」こととがバラバラ…
- ・内部にかえこみ人との一体化欲望を十分に昇華しきれぬまま、デジタル型のイエス・ノーの論理の世界に投げ込まれてしまっている。→ 「こぼれ失った若者たち」 長瀬謙
- ★ ほとんどの場合、正常な政治的要求などは「研ぎすまされたもの」と感じられる空気 → 「週刊誌の読み方」 亀井淳
- ★ 「生」にこだわることを、こ悪く思う傾向があるにすぎないですか。一般的に、人類は緩慢な自殺と逃げようとしているらしい。→ 「自然な関係」 吉田真由美、山本マコト
- ★ 引用という一種の暴力行為は近沢氏同
- ★ 意味とは、下世話には「作品と読者がセックスして生まれる子ども」なのだ。
- ★ 作品や行為の意味は常に他者のものなのだ。→ 金野吉晃の公運動批判

今月の引用

夢・3日夜明け・「悲しいでしょ」「悲しくなんかない」と答えるが涙あられ  
 肩を抱きA氏と泣きあう。それはY氏と思っただけのような(お前は年のせい?)  
 ・4日夜明け・F氏はかつて候頭がソだった。(ハスキーボイスの秘密?)この  
 背負うもの大きさが彼のシブな文章のよてきたところ。とたたくてしまう。  
 ・9日夜明け・権力に追われている。O×Δ□が好きだというだけの理由で。  
 (前日、私がO×Δ□が好きだから「鳥歌」のVTRを頼んだとSAに言われる。  
 ??でも「右でもなければ左でもない、自分はリベラルだと思ってる人は結局、  
 その人をツツみこんでいるシステムの強制力に支配されてしまう」→「コンテキスト感覚」)  
 ・11日夜明け・M氏が横山やすしが好きだという。結婚しよう。(前日、某氏が  
 マジメでおかたい東京のインテリは大阪へゆくべきだ」と言ったので、マジメで  
 大阪在住のM氏はどうなるのかと思ったことの夢の中の解答) さて  
 以上のことは夢が語ったことであって「私」は夢にも入らな思っせんか?  
 本・「コンテキスト感覚」丘沢静也「河馬に噛まれる」大工健三郎が感  
 銘深い。前者は(今月の引用)で引用しような硬直したものではない。  
 貝事に「一色に染まっていない。知」や本が昔年と著者は語るが「知恵の  
 バランス棒」持っている。他に「二ヶ丘遊ば」上杉春文「好物漫遊記」  
 種村季弘など。今月は友人に借りたりして、漫画をたくさん読んだ。  
 「絶対安全剃刀」高野文子「改訂版大日本帝国萬画」原律子「AKI  
 RA」大友克洋「生物都市」諸星大二郎「コンヤロ商會」91が立石など。  
 一番印象深かったのは早見純氏の一冊。(題名失念)その巻の序文に、最  
 初はついてゆけないかと思っただが、後から気づく奥深い所をやられている  
 ことに。彼のことは、もう一度読んでから、お言葉に返るならしむと思っ  
 映像・ハロ「シリオの無い映画たち」3/10。旧態依然、用ざられた世界。

米川和子氏の1年間、自分を操り続けた60分の日記映画はアングルが  
 新鮮だ、た、私の作品は、前にはなかった、昔い結末?がつけ加えられている。  
 「不思議少年通信」で河田氏はこの作品を「幸福な気分」にさせてくれる  
 と評してくれたが、不幸な気分をさせてしまうかも...と最近思うことがある。  
 それがいけないとは思わなけれど、ためらう気持ちはある。ところで、このハ  
 イロの催し物、①出品者に対し料金の説明がなかった。(私だけでは  
 なく他の人も言、言、きた)②3/7にもビデオの出品を頼まれていたので  
 会場にゆくと入口は閉ざされ「都合により中止」の貼紙が...  
 など、なかなか無責任なので、ウチウチゴソゴソやると思われてもしょうがない。  
 ・「面会時間」(巻)シノ・クロード・ロード(加)...TV 非暴力主義を標榜する  
 女性TVキャスターがハンジツシムにつけ狙われ、最後には彼を刺し殺すとい  
 ストーリー。末端神経的な恐ろしく、誰もが内蔵する暴力衝動が指  
 摘されていてゴワかった。トラウマの深さが変態性と比例するのだろうか?  
 主演の殺人者を好演していたのがマイケル・パイサンで、彼は「スキナーズ」では  
 超能力により相手の頭を爆発させる。直接手をつないで現代の病理?  
 ・新日本プロレス 藤原vs前田、藤原vs猪木。UWF系の文脈で語られるプロ  
 レスの面白さ。ラスト、オチた(失神した)藤原が結局、勝利者たというカゲシと  
 音・NHKFM「朝のニ・ジ・ク」民族音楽のコーナー。口琴名人の、多重録音か  
 と思わせるほどの芸。・アンドー・ジ・シフ「ハ・ハ・パルティ・ア」何とかがやかな。  
 ライブ「鳥の歌」寂然とし、部分があるけど、自分の中で整理できてないので、今...  
 ・「きの」グロマン 3/2 その日、矢張り死亡か?の噂を聞き、ちよと忘れられぬ  
 一夜となった。つらい時につらい歌を聞くのは、とてもつらいものだ。痛に受けた  
 ①氏のホロホロで、少し、楽になった。(その時の私同様、きの氏も苦しいんだなと  
 ・「Ché-Shizu」変わらないで、落ち着くことでもある。の共苦感をおぼえる。

・「梨と母の形と」と 2/20 竹田さんの踊りは、鈴木やまいさんも、以前、  
あのような手の動きを映画にしたことあるといっていたけど、私も撮った  
ことあるけれど竹田氏の方がずっと表現力が豊かだ。架空の楽器をつま  
び回すようにもなり、エロエロだったライトビルとピエッツ付きたった♡。  
・「失禁する劇場」 2/22 荒井真一氏他5名による「舞踏と音の死体学」。  
「パフォーマンスの持つ、多様性=うさんくささ=毒」(荒井氏)があった。そう  
いえば、去年の「音の交叉点」2日目の田中トシ氏の動きはSF映画の中の異星人  
めいたところがあった。今回も「劇場」内が急に原始時代に戻ったり、  
喧嘩の修羅場になり、と私にとってはイメージが違った。ただ  
音楽や舞踏の語法で語られる部分があり、それはそれで「面白い」のだが、  
そういう意味では、田中トシ氏は、そのはざまの所に立っていたといえるのでは？  
— どうも 文章がへたで舌足らずで申し訳ない —

さして。(PE作ってるより)「パーティールお料理を作ってる方が、ガイが  
なくて、いい」と霜田氏に電話で言われてしまった。ナジのツギ行達  
からの「お便り」あるいは筆禍のうず古禍の嵐といった今日この頃だが、  
「霜田誠=新圃」に「乙部さんと話しいて誤解されてそうなので」と  
いう所があったので、すぐ電話して聞いた。「金銭的な理由だてがある  
と思われているのでは？」ということだった。私は彼に「パトロンがいるとは思  
ったことはない。ただしあれほどの赤字だとは思わなかった。知り  
ようもない、と言うことはできない。「2連続祭の時のパンクが8月だ  
たのだから、そこから推察すれば、わかるのでは？」(霜田氏)。知ろ  
うとしおろした。参加者として、どこまで立ち入っているのか、難  
しい。霜田氏のあの報告は、ちゃんと選んだけれど、やるべきことだった、  
とは思っています。語り口はともかくとして、霜田氏の報告の正確

と勝手に引用してしまっただけで、一度吐いてしまった言葉はもう  
取り返しのつかないものではあるけど、ここにこうして書くのは…？  
という気持ちがある。一番いいのは、その時すぐ疑問があれば  
しゃべってしまうことだろうが、会話のテンポの早さに、ついていけない。  
あれよという向におしゃべりは進行してゆき、受話器を置いて  
しばらくしてから、あのような言葉が**あり**のように残っていることに  
気がつく。「害がある」と思ったら、すぐ言うなり書くなりしてほしいと思いが  
「やらねばならぬやり返せ」という方法には疑問があったりするし…。結局は、  
この世から**金**というものがなくなればいいのだ、なんて急に結論づけられた  
りして…。(甘い。言うだけなら誰にもできる。) 荒井氏の事件では、まず、  
同席していたのに、ヒトの事に口を出すのも…と高見の見物とすめこんで  
いたこと、反省してる。荒井氏のタイトルに動かし続けたので、GESO氏とその友人と  
福本氏と私が別卓にすわって関係ないことしゃべっていたのはよくなかったか  
なあと思ったりもするが、私はその時の荒井氏の方針に賛同していたし、議論  
は昔年なので…。でもやはり、と真面目に(仁王立ち)のこと話すべきだった。  
(なお、カネは殴ってもいいよ、という言葉と共に、彼自らが押し付けられた  
ということと「説明しておきたい」ともして、五者五様の問題点はある。

— こんなグジグジした文章にすみおめせらまて、ワレ！  
今日は「今日の引用」のみにとどめようと思ったのだけれど、つい、△Xの  
上めりにならぬことを願うが、文章を書くこと自体はそれほどの否定的  
に考えることもない、肯定的になることもないけど。公表ということに問題が  
つきまとう。なんで言葉のハリ地獄の中におちこんでいるのかも。  
GESO氏の出来事の記述、垂直の勇氣、と思ってしまった。  
ところで 水平の勇氣 つかえてるからか

たとえや

朝がきた。ワタシ私のことは、

ワス忘れろレ〜ヒヒテところでわたしあいあいあい哀しい。トコロ

これはおもしろい。トテモ面白い。

たちたちたちたちたち

上のは、6?6?なん難じゃ、これ?

垢×初めて左××沢×××触る、picoword※

まだまだ扱い方を、こころえていないけど、例ば例えば、ちいさなちいさな「つ」は、どうするんだつけ?

Cっんわワ・”vできた何とエクスクラメーション・マークがない

>びっくりしたナ猛〜=÷〒±#!!!!!!

ワッアアあああつたあれ?できない?!できたあああれ

おかしい。あ、!できたああア!わかった。

11!!!!!!どうだ1あ!どうだ!できた!!

痕後は、第2シフトの使い方(代)1!1がついてまわる・・・

刪@#〒なんかも、有る。

あああ!@#%\$&\*()±=÷「」“” ; <> , とか

もモ “も / ・ : ~〒×+- . , ? ※なんかもあるけど、

手可欠ん?手我ん?手加ん?手画ん?

手書きの方が早い。「書」は、「ショ」デ、一引く。

i I am very 塚疲れたよよヨヨタ、テユエフトホレツヨ

たれとゆおよせつせふさむよとみそむきらたみおなぬせむ

目茶九来苦茶にやつてみな(±&KN)!”LHL(±“Szfh/l

此れは、qq火借物だ。.....第2シフトガできたア!

〃一二三四五六七八九十百千万都道府市区郡町村字丁目

番地号様殿御中部課係億円昭和年月日時分々〃.....

之れが、z2第二シフトだ.....

まだわからない仕組が三つほど...でももうあきた。

by 音乙部 戸倍 やつたああ! アあと!が同じキィ〇

by by 音乙部 征古 by by by

ところで、コレを×qが、ワープロというもののなのだろ〜qか?

音乙部 戸倍 声井世正生成西制姓征古小子己戸仔乎去児呼

GESO氏も、H@毎会、コンナ苦労してるのかなあ〜

眼が把れた。

回!ヤジルシがない。。。



かえり振りに。御無沙汰してしまいました。去年の暮れまで書いていた「ドイツ映画祭の映画評」や、感想を打つて全部書き送っているから、たのび是非最後までやらせて下さい。実はいささかという感じがあるけれど、先日観た「オ一回公民館運動」の感想を書いてみたら、実に自分のグチみたいな事ばかり出てきていかに「お、たのび。早く客観的にされるものをとりあげよう」と思っていた訳です。逆にこればかり「公民館運動」の方は傍観者に徹しきかねないある種の切実さを感じていた訳です。簡単にいっておくと、出陣した人全てに可能性と落胆(絶望まではいかない)を同じくらい感じたので、総和するとセムに似たり、さらに自らの位置を考へあわせると少しマヌス個人へ傾いてしまったという事です。(しかし、それくらいに面白いイベントはやはりここ2-3ヶ月出陣しているから、たのびでこればかり続けていって欲しい事のひびつてくる。次の幹事さんへ願望を述べたい。

### 12/3 「乗り逃げ野郎」(178)

こういうストーリー性の稀薄な映画は、いかにミニシネマらしさを感ずる。監督はこの作品に至るまで、かなり実験的な作品ばかり作っていたことでも有名だったというけれど、画面もサウンドもさほど異様とはいえない。レオフ中の若者3人がいる。1人はかなりヤケクソ肌(?)の頭の下りりター格、1人はキリシヤからの出かせき下か、もう1人の期限かまてい、もう1人は気弱な若者で、母親に一時解雇になつていふことを言えなつていふ。彼等のアートの系に偶然救済された大型トレーラーに気晴しにハリこみ、一晩たけのつくりか、途中の女をひろたりしなからするすると走りつづけ、盗難をまよりに、つかまりつうになるけれど、そんなことあまり苦にはせず、あてもなく走り去つてしまふ……。永遠に宙吊りのまの自我、行方未知の行動力、抑圧されているけれど、それか何に由来しているのかも理解したくない。解放をしようとも思わない。空洞のような現在を充填しようとはかたがた。「逃げようとしたけれど、つかまることもない」という教訓なのかもしれない。昔、日本の作品でよく似たター格のものを見た覚えがあるけれど、やはりとしたター格を思い出せない。

### 12/10 「全面的に制約された人間性」(175?)

最後の作品だからという訳で、期待し、裏切られなかった作品。この映画の基調となるベルリンという街が、車窓から刻明に写し出される。主人公(監督自身である)である女性のフリーカメラマンは、報道写真や記録写真を一枚いかに契約して生活している。女の子が1人いて、生活は楽ではない。ベルリンの状況に対して確固たる(?)視座を保持しているが、決して安易に自然保の団体のホランテア-などに協力するのでもない。彼女は女性のフリーカメラマンのクルーに入っており、市からベルリンのイメージを改善

するようはホスター群の若の写真を依頼されている。何故その仕事か。彼  
 女達の所にきたのか？ ひとつ、男性のグループよりも安くできる。ひとつ、女性  
 解放運動の団体が彼女らを使うように推した。(しかしその団体の女性たち  
 は、彼女達の属しているグループか、何を考えているかを握っていない事  
 後に明らかになる。) グループが撮ろうとしているのは勿論おそゆきの顔  
 をしたベルリンではないし、女性のカネ糸面に押し出した作品でもない。  
 強いていえば「壁」としてのベルリンである。あるいはベルリンと壁の関係  
 についてのイメージを作り直すことにある。彼女たちは様々な実験と討  
 論を重ねる。(話しに合った写真を大きくやめて、壁に貼る、貼る... 観客を  
 つまみで、東の見える台にのぼらせ、その様子を撮る。etc...) 関係  
 者向けの展覧会も開かれるか。反応は思わしくない。布からも女性団体  
 からも理解、協力は得られない。「壁」は存在するか、避けるべきで  
 はないか。彼女はそれを知りつつも作品を認めてもらいたい。着ている  
 服もいつも同じ。恋人は優しいし、子供も持っているが、彼女の仕事について  
 は不干渉なのか理解を示さない。失意は常にあるか、意志はサセツツ  
 シレンでは常にあるか。根はひとつか。まして、色々な意味と体制に  
 対して規制されている人間があり、彼女はそれを完全に理解している。  
 ベルリンはヤケに人の住んでいない古キルムの夕の街で、それを再開祭のため  
 に破壊している所か、ホッカリ欠けている。まこところに居ると人の流出が  
 多く、あえて住むという人には金が出るとか...。又うん化しているスラム、  
 整然たる廃墟というイメージが湧いてくる。しかしそういうものの中、ふくらん  
 ぐあや、しているであろうイメージをぬく意味で、そして知ってみたい街で、この  
 映画祭中にベルリンが中心に扱われている作品は3作あるか、それそれ  
 全く異なる視線にするため、私としてはこの最後の作品か、周囲の人間関係  
 とわらはん似ていることか、理由となる、面白がる、たつ。

この映画祭の後、TVをみていたらモスクワで日本映画祭がまたこを報  
 道していた。そこで上映されたのは「蒲田行進曲」や「男はつらいよ」など  
 あたという。観客の反応は未だの如く「日本がよりよく理解が返るおに  
 とりあえずソソッとしたのか。私のドイツに対する観念も垣あくはこうに  
 類のものではないこと... 少なくともモスクワの日本映画祭よりもよく考えられた  
 企画であったことを疑う気はなすのか。皆さん！外国で日本映画祭を  
 ねとめられたら何をやるべきかと思いませんか？ 私はあるいはふおとすると  
 「蒲田行進曲」と「男はつらいよ」は良い選択だったのではと思、取り替  
 へし「ゴジラ」と「逆噴射家族」もやれるのか？ 「お葬式」と「仁義の道」  
 も必要でしょうか？ GIESO君、クレーン、そのほかはとれないかな？ 日活では？

キヤッツ

《私の休日》

2/22(土)・ピアノのレッスンの予定。気が向かなくてキャンセルする 主に練習不足のため

・天気が良いので早くから出かける。

・AM 11:00~ 大阪府立文化情報センターに 3/8の千ヲシ置きに行く。ホールの使用に付いて  
聞く。半日 5000円 担当者の説明も親切で良い。7月位に借りようかな  
と思う。

・AM 11:50~ 甘い生活 (フェデリコ・フェリーニ)

・PM 3:00~ 千ヲシの店置きフラインジに ロード、楽譜、古本等 見まわす。

買ったロード ASTOR PiaZZoLLA / Libertango, ケージ、ベリオ、ドラックマン / テレフ音楽集

・PM 6:00~ ナイトキャバレー Live at イックプラント

以前一緒にバイトした事ある栄氏と会う。最近 プログラマー やめと 芸術家を  
やっていたら。 3/8の千ヲシ 渡したら 芸術的だと言われた。

アフターディナーの 宇都宮氏と会う。アフターディナーでフランスに行く話が  
あったが 4ch分 スピーカーを用意してほしいとか Xメンバー 8人で行きたり  
とか言ったら 返事が来なくなったとか

文化情報センターを借りようと思ってる子 と言ったら あとこも 1111けど  
中之島公会堂が全館丸一日 100000円 なのだと どちらでも やりたいと言われた。

グルジエフ - ノイズバンドかと思ってたが 下手な ソフトウェア テキスト みたいだった。

OXZ - 女の子 3人のバンド 元気が良かったが 特に ぶがれる所もなかった

ダ...ピ - バックが テレフと キーボード、テレフが きちりつくられている分 彼女の  
歌の下手さが目立つ。途中の踊りも 中途半端で こけいな  
感じ。彼女の事だから自分では良いと思ってるんだらうな..

TB02 - 前のるバンドより 決定的に巧い。 全員 総立ちになったが、  
立っているだけ 別に 受けている 様子もなく 拍手も 少ない、  
不気味。 アンコールも 5~6人の拍手だったので やめるかな  
と思ったが 出てきた。

2/23(日)・ジャンクショップに レコード売りに行く。LP 17枚 + EP 6枚 2 8000円

NICO のチケット 発売日だったので 買う

・PM 1:00~ 3/8の機材の件で 京大西部講堂へ行く。山谷の映画に  
行ってる とかぞ 寺川君 は いなかったのど 青ちゃんに 伝言箱のむ

・PM 1:30~ 日独学会館 1917 SATIE 巖倉啓子他。

受付前で 3/8の千ヲシ 配るが 用意した分では 足らなかった。立見も出る  
大入り。 サティの場合 音楽が 演奏家より 大きすぎたり、演奏家が  
雄弁すぎたり という事は なし 企画する方も 楽しんでる というのが よくわか  
る。 演奏は ピアノ 連弾、打楽器、シンセサイザー による パラードか  
今一つ といった感じだった 他は良かった。 サティよりも ショパンのワルツが

ストラヴィンスキーのタンゴの音がなんとなく印象に残った。

しかしサテにていつまでも新精神とかアヴァンギャルドとか呼ばれる人でしょーね。

PM 4:30~ 献血ルーム四条に献血に行く。別に好きなおけでもないけど最近毎月行っている。献血手帳にスタンプが増えるのが何となく嬉しい。ここはいつも若い女性が多い。献血中の女の人って何となくなまめかしい感じがする

右手が注射のキズだらけなのを左手からする。血圧58-108でもうもよリヤシ低目。以前は200ccとるのにやたら時間が

かかってうんざりしていたがなぜか最近はずっと「あっ」という向だ。

薬飲んでませんかと聞かれて1917 SATIEで水筒リリが出たので食べたの思い出した。輸血される立場にはなりたくはないなあと思った

PM 5:00~ 近くの中古ロード店 2~3軒まわる

買ったロード セロアスモフ / BLUE SPHERE (71年のピアノソロ) 、  
ベラバルトク / ピアノ協奏曲 1番、2番 ポリーニ、アバド、シゴ響  
フアン・リリスト / 巡礼の年 第2年 シンベルト・テ・レーウ

PM 9:00~ 3/8のDMのあと名書き。500枚印刷した千円切手のストックをほとんどなくなる。

スタジオウリエは客と見事に演らせてもらえるし私らにはいつも好意的なのだけど客が10人前後だと申し訳なくて...



今月はGESO君の他、準レギュラー的な金野君(署名なかったけどわかる子からいいよね)その他新しく二人。一人はわかる人にはあがってしまうけど、もう一人はちょっとおかし。僕は署名を強制していない。あ、たぶんいい人となんかいい人となんかいい人。それは書く人の自由でいいです、それから霜田さん(どうして「君」と言わないのか? 僕の方が年上だから「君」でもあがしくないか? 何故年下な「君」でいいのか? などなどないこと突然考えてしまった)からその「1985」論争の手紙のコピーがきたのだけど、その後やりとりが続いているようで「PE」の原稿とするのは保留になっています。それで僕の方から「PE」に少し書いたのだけど読み返すほどに文章のおかしさ、もどかしさを感じていやになっている。私信的なものを公開してしまう不安。どめがく霜田君(変なかんじ)GESO君、僕も参加しますから楽しく論争せりませう。投稿してくれた皆さんどうもありがとうございます。読んでくれた皆さんもどうもありがとうございます。言いたいことがある時は知り合いたって勇気をもって言おうね。

福本健修と先ず名前を書いてみる。

GESO君、毎回どうもありがとう。2月はよく会いましたね。皆ともこんなに会うと〈PE〉を出す必要もないような気がする。

〈きの〉君のライブ。鈴木君が出ると思い込んでいて(客として居た)行ったのだが1時間以上待たされたのにはまいった。映画「道」を紙芝居にしてフォーク的? 怨歌的? に挿入歌のように歌っていく方法は好きだ。〈失禁する劇場〉久しぶりの即興の場。田中トシの跳躍が印象的。他はGESO君と重なる所も多いので省略。

さて、荒井問題は一番近くにいたので一言。(こゝは読み返すとくたないと思ふたので)僕でも喧嘩になっていたと思うけど、そうなる前に止めるべきだったかとも反省している。論争以前の状態で決着をつけてしまった感じ。霜田問題の方は他人事ではなく〈新聞〉には反発を感じた一人として無視できない。僕は霜田氏が儲けようとしているとは少しも思っていないけど、売ることも含めたブックパフォーム、つまりは参加者の総意に基づいて成立するものなら「赤字が大きすぎる」と言うけれど、人数が決まった時点で印刷部数、費用など参加者と話し合う余裕は無かったのか? 一人で頑張ったのは良くわかるし、「1985」が(こゝも)書き直す気がかたない。

話していきたい。言葉というのは怖いもので自分の発言の受け取られ方自体は否定できるものではないし、〈PE〉だっていろいろと思われているのだろう。言いたい事が有ったら隠してないで言って下さい。でも、こんな風に書いたからといって、(こゝも)後悔ばかり、すっかり強いワ-ワ-ロになったかな

ということで、荒井・霜田両氏共に嫌っているようなワープロ? で書いて? 打って? みた。ここまで4時間位かかった。ゲームのような面白さ、すっきりした字体の気持ち良さはあるけれど、とにかく疲れていやになった。あとは手書きで……。

ワープロだと印象(文体)が違ったたるうか?

(本)トマスアロック「超音速漂流」は興奮、事故による気圧の南係で脳をやらせてギンビのように入り込む乗客。筒井的な死の描写登場人物と水との思惑が見事なサスペンス。船戸与一「祖国よ友よ」俺は国籍なんか欲しくない。たとえどんな国のものであるうと〈俺は国家に裏切られたことなんか無い。一度たって国家を信用したことなんてないからな〉などと誓い、トポイルドのセリフを口ずかす。格好良すぎる恥しさはあるけれど、しかしやはり強い字になった。